

ビル・トッテンの講演でいただいた コメントに対する回答

トッテンの講演に対して、たくさんのコメントやご質問をいただき、ありがとうございます。トッテンが用意した返信や回答をまとめましたのでご覧ください。

講演テーマについて

なぜビルさんは、このようなお話をしようと思われたのでしょうか？

なぜなら、これらのトピックは今日の私たちにとって最も重要なものだと思うからです。もし、他にお勧めのトピックがあればぜひ教えていただきたいと思います。

コロナについて

ビル会長の独自講演を楽しく聞きました。ただシェアとか率というものには少し疑問がありました。ワクチン接種している率が多ければ、なんらかの形で死亡します。ワクチン接種していない人の死亡が少ないのは、接種していない人が少ないという結果だと思えます。

ご指摘のスライドは、英国におけるワクチン接種者10万人あたりの死亡者数と非接種者10万人あたりの死亡者数を比較したものです。

アシストの社員の方々のコロナに対する考察は、貴兄に近い方が多いのでしょうか。

わかりません。私は自分の考えを自由に表現していますが、社員に「どう思うか」とか「私の意見に賛成しているのか」と質問することでプレッシャーを与えたくはありません。

コロナ禍は、世界の人口抑制に結びつくことは感じていました。ただ、それは、人工的だとは理解していませんでした。人工的であれ、自然現象であれ、長期的に見れば、世界に良い影響を与えると考えています。

コロナが人工かどうかはわかりませんが、私はおそらく人工的だったとみています。しかし私は、選挙で選ばれたわけでもない人たちが、恣意的に密かに人口削減のために何かを作ったり、やったりすることを強く嫌悪します。もし誰か、あるいは何らかのグループが人口を減らしたいと考えているのであれば、それは世界中の人々、あるいは少なくともその政府によって、オープンに議論されるべきです。

一年振りに厳しい世界情勢についての見方を拝聴しました。コロナ禍については仰る通りメディアでの数字には疑問を持っています。何故毎年多いインフルエンザの死亡者が発表されないのか、何か意図があるのか等々不審に思っています。何処かの国々の思惑があるのか？

私は、コロナには何か意図があるのではないかと考えていますが、それを裏付ける十分な証拠はありません。ですから、私が話せるのは知っていることについてのみであり、疑いについては深く言及できません。

自分が日頃から得ている情報との乖離がすさまじくて、しばし呆然です。コロナ禍が一旦収まり、また拡大し、終息の出口がわかりません。一方で、あれだけの人口を抱える中国の感染者が増えていないように見えるのは、中国の報道規制、うその情報開示のせいだと思っています。

私が持っている中国に関するデータのほとんどは、信頼できる国際機関からのもので、中国政府からのものではありません。では、日本や日本政府、米国や米国政府に比べて、中国や中国政府からの「虚偽の情報開示」が多いという確かな証拠や説得力のある理由はあるのでしょうか？

私も最近、事実とは何なのか？をテレビを視聴していて感じるが多くなりました。一方で、その元データの信ぴょう性については、どうやって確認できるのでしょうか？例えば、中国のコロナ感染者数は実際にはもっと多くの人が感染しているけれど、政府が公表しないとか…。これは、やはり自身の判断でしょうか？

私が使用しているデータのほとんどは、国際機関からのもので政府機関からのものではありません。データは決して完璧ではありませんが、私が使用しているデータが特定の国に有利にも不利にも偏っていると疑う理由はありません。

中国でコロナの死亡者、死亡率が少ないのはどんな理由があるのでしょうか？

中国でコロナによる死亡者数が少なく、死亡率も低いのは、感染が発覚した時点で、迅速かつ厳しいロックダウンを行ったからだと思います。感染者と、その感染者と最近接触した人たちを回復するまで家に閉じ込めたのです。そして、回復するまで家から出ることを禁止しました。政府は、回復するまでの間、食料やその他の必需品を家に届けるサービスを提供しました。これにより、感染の拡大を大幅に抑えることができました。中国では、個人の自由よりも義務や責任が優先されます。

昨日、3回目のワクチン接種を行いました。私の死亡確率が上がったのでしょうか？統計的に見れば、ワクチンを接種した方が、感染した場合、死亡率が上がるのですから、そういうことになりますね？

わかりませんが、私はこれまで自分が読んできたことをもとにワクチン接種をしていませんし、これからするつもりはありません。

日本政府や他の政府が国民の健康に心から関心を持っているならば、もっと多くの統計を発表するでしょうし、そうすべきです。

感染したかどうかは、信用できないPCR検査によるものですから、どのように判断すれば良いのか、わからなくなりました。

講演でも言いましたが、米国政府は昨年(2021年)12月末に、PCR検査では新型コロナウイルスと通常のインフルエンザを区別できないため断念したと発表しています。

ビルさんはCOVID19のワクチン接種はされましたか？ 私は医療従事者ですがワクチンは接種しておりません。認可までの期間が短すぎることに違和感を覚えたからです。

コロナワクチンについては、私も同じ理由で予防接種を受けていませんし、接種するつもりもありません。いつものようにお客様のところに行けるのであれば接種していたかもしれませんが、ビデオでしかお伺いできないので接種する義務はないと思っています。しかし、妻は磁器に絵を描く教室を主宰しています。生徒のために予防接種をする義務があると妻は考えてワクチンを打ちました。

コロナが蔓延してもこの2年間でトータルの死亡率の変化がないことは、もっと報道して欲しいです。死亡者の大半は「他の病気が主因」は事実だと思いますが、コロナに罹患していなければ、もう少し長生きできたと思います。その意味で高齢者や基礎疾患のある人が予防措置をとることは必要だと思います。ただし、コロナは気中(飛沫)感染です。最大の予防は換気であり、今、世の中でスタンダードとなっている「アクリル板」「身の回りの消毒」「屋外でのマスク」は「やり過ぎ」なので見直すべきだと思います。(アクリル板では飛沫は防げず、逆に換気を妨ぎます。)

「コロナに感染していなければ、もう少し長生きしていただろう」という点ですが、米国政府(CDC)はPCR検査はコロナとインフルエンザを区別できないと発表しています。このこととコロナがはやる以前でも多くの人(特に高齢者)がインフルエンザで亡くなっていた事実を考えると必ずしもそうは言えないと思います。感染対策については全く同感です。

中国について

日米中の比較がわかりやすく分析指摘をされていて、なるほどと思います。アメリカの荒廃ぶりや戦争好きもよく理解できますし、近々の中国が世界の勢力図を塗り替えて発展している姿もよくわかります。ただ、やはり言動制限とか情報管理などの措置を平気で行い、人間の基本的な自由とか人権を阻害している中国という国に対して違和感を感じてしまいます。

中国の言動規制や情報管理に対するご懸念は理解できますが、弊社、アシストを含む一般企業以上に中国が言動規制や情報管理を行っているとは思えません。また、私が見てきた国際的な調査や、私が知っている中国人との会話から、中国人自身は政府が過度に言論を制限したり、過度に情報を管理したりしているとは思っていないように感じました。そして、公然と言論を制限したり、公然と情報を管理したりすることは米国政府のように情報を隠したり、市民に嘘をついたりすることよりも良いことだと思います。また北米の先住民や黒人、米国が爆撃、攻撃、侵略した多くの国の人々の自由や人権を考えると、中国の行動は米国の行動よりもはるかに優れていると思います。

「中国の政治体制は会社経営と似ている」はなるほどと思いました。私は中国で報道・表現の自由が認められれば、中国をもっと好きになれるのですが、トッテンさんはどうお考えでしょうか？

中国の報道や表現の自由度は、貴社の社員に与えられている自由度よりも低いのでしょうか？企業や組織に所属する人々には、ある意味、暗示的に、表現の自由の制限があるのではないのでしょうか。さらに重要なことは、私が参照した国際的な調査（中国政府による調査ではありません）によると、中国の国民は、調査対象となった国の統治のすべての側面に対して、日本人や米国人よりもはるかに満足しているという結果がでています。私たち日本人や米国人は、中国よりも自分の国のことを心配すべきなのかもしれません。

What level of democracy does China have?

<https://www.herecomeschina.com/what-level-of-democracy-does-china-have/>

たとえば、ニューヨーク・タイムズ紙（2022年2月21日）の記事では、「CDCは収集したCOVID-19データの大部分を公開していない」と報じています。
”疾病管理予防センターは1年以上にわたり、米国内でのCOVID-19による入院のデータを収集し、年齢、人種、ワクチン接種の有無別に分類してきた。しかし、その情報のほとんどは公開されていない。”

<https://www.nytimes.com/2022/02/20/health/covid-cdc-data.html>

米国の情報統制と中国の情報統制は大きく違わないように思います。

中国については充分理解できますが、広範囲の自由が得られるのか、国家存続の為として制限を受ける恐れを感じます。中国は数字を見る限り米国、西欧諸国より優位にあります。しかし将来については現在の体制維持が可能か、疑義を感じます。

中国が国家の存続のために自由を制限していることには同意しますが、その制限が企業が会社の存続のために従業員に課している制限よりも厳しいものであるとは思えません。私が中国が米国や日本よりも将来性があると思うのは、(1)国民への教育が行き届いていること、(2)政府のリーダー選びが優れていること、などです。

日本が目指すべきモデルは米国よりも中国ということなののでしょうか？

私は米国モデルは、他国を支配し、搾取しようとするものだと思っています。例えば、1945年以降、米国が日本を支配し搾取してきたように。その一方で中国モデルは、他国との間に互恵的な関係を築こうとするものだと考えています。私は中国モデルのほうが良いと思っています。

日本はどうすべきか

日本が一国として意見が言える未来がいつか来るのでしょうか。この先永遠に米国の意見に合わせていくのだと思います。

日本の将来については、私たち国民がいつまでもアメリカの意見に合わせるのではなく、自分たちの意見をアメリカに表明する政府をいつ選出するかにかかっていると思います。つまり、すべては私たち市民が自分の投票で何をするにかかっているのです。

中国・米国・日本を独自の視点で分析・説明頂き大変参考になりました。講演頂いた内容を踏まえ、ならば日本の今後はどうあるべきとお考えでしょうか？

私が長年考えてきて、今でもそう思っているのは、日本は米国の言いなりになったり、植民地のように振る舞うのをやめて、独立した主権国家として振る舞うべきだということです。日本は、中国、ロシア、アメリカ以外の国なら、攻撃されても自国を守るだけの強力な自衛隊(軍隊)を持っているので、米国の軍事的支援は必要ありません。

そして米国は、中国やロシアから日本を守ることはできないし、守るつもりもありません。なぜなら(1)米国は軍事的に強い国と戦ったことがなく、(2)中国とロシアのどちらか、ましてや両国がチームとなればそれに勝つだけの軍事力を米国はもはや持っていないからです。

講演で使ったスライドの1つに、1945年以降、米国が他国に対して行った数多くの軍事的侵略を示したスライドがありました。中国やロシアが他国に対して攻撃的な軍事行動を行ったのはいつだったでしょうか。そしてもし日本が中国やロシアと良好で友好的な経済的、政治的、社会的関係を築いていけば、彼らは米国のいかなる攻撃からも日本を守ってくれるでしょう。

米国中心の資本主義経済が終焉に向かう中、それに代わる新たな経済の仕組みは中国中心のものにならざるを得ないとは思いますが、その中で米欧日はどのような立場を取るべきかについて、お考えをお聞かせください。

米国、欧州、日本は、中国、ロシアをはじめとするすべての国と、経済的、政治的、社会的に良好で友好的な関係を築くべきです。中国とロシアは、中国の「一帯一路」や上海協力機構(SCO)など、相互に利益をもたらす組織を通じてすでにそのような関係を構築しています。ドイツとフランスは、ゆっくりと、しかし着実に米国から離れ、重要なエネルギー資源を得るためにロシアに近づき、相互に利益をもたらす貿易のためにロシアと中国の両方に近づいています。

日本もそうすべきです。米国は、貿易よりも戦争を、相互利益のある関係よりも支配を好む唯一の強国であり、その結果、徐々にではありますが着実に弱体化し、孤立しているのです。繰り返しになりますが、日本は米国の言いなりになったり、植民地のように振る舞うのをやめて、独立した主権国家として振る舞うべきです。

マスメディアやインターネットについて

私もトッテン様と同様に新聞、ラジオ、TVについて、決して間違わないスポーツの結果等しか信用していません。

私もマスメディアを信用しているのは、スポーツニュースだけです！

情報の真偽を見極める力を養うこと、また、部下にその力を持たせ育成することに苦慮しており、特に、インターネットで得られる情報は玉石混淆であるため、信憑性をどう担保するかがいつも課題になっています。トッテン会長はどのようにされてらっしゃるのか、可能であればお聞かせいただけると幸いに存じます。

たしかにインターネットには様々なものがあり、真実と嘘やナンセンスを見分けるには経験と判断力が必要です。しかし、新聞やテレビが偏っていることを我々は知っています。なぜなら、彼らは収入のすべて、あるいはほとんどを広告から得ているので、広告主を怒らせるわけにはいかないからです。

私は、30年以上前にノートパソコンが発売されて以来、ほとんどの情報をインターネットから得ているので、正確な情報を得ていると確信しています。以下が、私が毎日利用しているソースです。毎日訪問する順番に並べてみました。

<https://www.zerohedge.com>

<https://www.moonofalabama.org>

<https://www.unz.com>

<https://off-guardian.org>

<https://www.globalresearch.ca>

<https://www.moonofshanghai.com>

<https://www.nakedcapitalism.com>

<https://www.strategic-culture.org>

<https://journal-neo.org>

<https://www.paulcraigroberts.org>

<https://www.counterpunch.org>

<https://thesaker.is>

これらのソースはほとんどは英語で書かれていますが、Google翻訳などの機能を使って日本語で読んでも理解しやすいそうです。ちなみに、私の妻はテレビを見ながら、毎日、日経新聞と京都新聞を読んでいます。バランスのとれた視点を得るために週末版の「赤旗」も読んでいます。

ウクライナ情勢について触れられませんでした。米国(NATO)がなぜそこまでして範囲拡大を狙っているのか、次々とNATOに加盟してきている現状ではなぜ満足できないのか？わざわざ危機的な状況を作りに入ってるのは11月の中間選挙のための自作自演的な仕掛けにも見えています(トッテンさんに感化されてきました)。正確な情報といえますか、多角的な情報入手を心がけたいと思います。ウクライナ情勢につきまして、トッテンさんの見解をお聞きたいです。

私は数年前からほぼ毎日ウクライナについての記事を読んでいます。その中で最も優れていると思う記事はこれです。

<https://billtotten.wpcomstaging.com/2022/02/18/the-crisis-in-ukraine-is-not-about-ukraine/>

著者のMike Whitneyは鋭くて彼の記事は信頼性が高いです。
日本語でしたら賀茂川耕助氏のブログを読んでください。

<https://kamogawakosuke.info/2022/02/20/no-1392-%e3%82%a6%e3%82%af%e3%83%a9%e3%82%a4%e3%83%8a%e5%8d%b1%e6%a9%9f%e3%81%af%e3%82%a6%e3%82%af%e3%83%a9%e3%82%a4%e3%83%8a%e3%81%ab%e3%81%a4%e3%81%84%e3%81%a6%e3%81%a7%e3%81%af%e3%81%aa%e3%81%84/>

<https://kamogawakosuke.info/2022/03/02/no-1401%e3%80%80%e3%82%b7%e3%83%a7%e3%83%ab%e3%83%84%e3%81%8c%e3%83%8e%e3%83%ab%e3%83%89%e3%83%bb%e3%82%b9%e3%83%88%e3%83%aa%e3%83%bc%e3%83%a0%e3%81%ab%e5%b1%88%e3%81%97%e3%80%81%e3%83%97%e3%83%bc/>

<https://kamogawakosuke.info/2022/02/25/no-1395%e3%80%80%e7%b1%b3%e5%9b%bd%e3%81%ae%e7%9c%9f%e3%81%ae%e6%95%b5%e3%81%af%e3%83%a8%e3%83%bc%e3%83%ad%e3%83%83%e3%83%91%e3%82%92%e3%81%af%e3%81%98%e3%82%81%e3%81%a8%e3%81%99%e3%82%8b%e5%90%8c/>

<https://kamogawakosuke.info/2022/03/01/no-1400%e3%80%80%e5%b9%b4%e5%89%8d%e3%81%ab%e5%a7%8b%e3%81%be%e3%81%a3%e3%81%9f%e3%82%a6%e3%82%af%e3%83%a9%e3%82%a4%e3%83%8a%e3%81%ae%e6%88%a6%e4%ba%89/>

<https://kamogawakosuke.info/2022/02/28/no-1399%e3%80%80%e3%83%9f%e3%83%b3%e3%82%b9%e3%82%af%e5%90%88%e6%84%8f%e3%81%a8%e3%81%af%e4%bd%95%e3%81%8b/>

賀茂川耕助氏 コラム一覧

<https://kamogawakosuke.info/category/%e3%82%b3%e3%83%a9%e3%83%a0/>

<お問い合わせ>

株式会社アシスト 広報担当 kouhou@ashisuto.co.jp

2022/3/15